

「障がい者同士交流を」 気軽に気持ちで競技を始める

試合終了のブザーが鳴り響いた瞬間に、固唾を飲んで見守っていた読者の多くが、惜しみない賛辞を送ったに違いない。

今年9月5日に行われた東京パラリンピック車いすバスケットボール男子決勝、日本代表は、前回リオ大会に続く連覇を狙うアメリカに60・64で敗れたものの、初の銀メダルを獲得。決勝の舞台では終始、手に汗を握るシーソーゲームを繰り広げ、あと一步のところまで前回王者を追い詰めた。これまでのパラリンピックの最高順位は7位。決勝トーナメントで1勝もできなかつた日本代表が、周囲の予想を上回る快進撃を続け、偉業を成し遂げた。

メダル獲得の歓喜に湧くチームの中で、万感の思いに浸っていたのが、垂井町出身・在住の秋田啓選手である。パラリンピック初出場ながら主力選手の一人として躍動。身長190cmという恵まれた体格を生かし、全8試合でチーム2位の計97得点を挙げ、チーム史上初の快挙へと導いた。表彰式ではメダルを受け取り、満面の笑みを浮かべていた。車いすバスケとの出会いは、20歳の頃のことだ。18歳の時にバイクの自損事故で左足を切断。右足にもひざ下の神経が切れる障がいを負い、入院は2年間に及んだ。しかし退院後は塞ぎこむわけではなく、むしろ

「運動がしたい」という思いがこみ上げてきた」という。「バッティングセンターやボウリングに行こうにも、障がいを抱えた体では難しい。そんな時に見つけたのが車いすバスケでした」

そこで、岐阜県下で唯一の車いすバスケットボールチーム「岐阜SHINE」を見学。最初は「同じ障がい者同士、情報交換できたらいいな」という軽い気持ちだったが、すぐさまその魅力に吸い寄せられた。

U-23の経験を糧に日本代表へ

東京パラ初戦から大活躍



車いすバスケは、選手同士の激しいぶつかり合いから、「コート上の格闘技」とも呼ばれる（場所／岐阜県福祉友愛アリーナ）

車いすバスケは、選手同士の激しいぶつかり合いから、「コート上の格闘技」とも呼ばれる（場所／岐阜県福祉友愛アリーナ）

教えて！秋田選手！

Q 初のパラリンピックの率直な感想は？

最高でした！ 無観客の開催でしたが、それでもこれだけ素晴らしい環境などと実感しましたし、自国開催だからこそ多くの方から声援をいただけました。選手たちのSNSはすごいことになっていましたね（笑）

Q 今大会のプレーに対する自己評価は？

97得点という結果は悪くなかったです。でも、「もっと決められた」という気持ちもあります。特にチームとしては、課題に挙げていたフリースローが散々な結果でしたので、決めて当たり前の1点をもっと大事にしていきたいです

Q 銀メダルを受け取った時の気持ちは？

やはりメダルは重かったです。メダル争いができる場所にいくチャンスは、たくさんあるわけではありません。決勝のアメリカはやはり強かったです。個々の強さを痛感しましたね。ぜひ次こそは金メダルを目指したいです！

Q あらためて車いすバスケの魅力は？

他人が絶対に侵入できないスペースができるので、それを生かした連携プレーが上手くハマると面白いですね。障がいのレベルに応じて選手ごとに持ち点があり、さまざまな障がいのある人が同じコートに立てる点も魅力です



秋田 啓（あきた・けい）

所属：あいおいニッセイ同和損害保険（株）／岐阜SHINE
1990年垂井町生まれ。2017年に日本代表選手に選出され、2018年世界選手権、アジアパラ競技大会に出場。東京パラリンピックでは攻守にわたりチームを牽引した活躍から、「清流の国ぎふ栄誉賞」を受賞した。

秋田選手直筆のサインを2名様にプレゼント！ 詳しくは56ページをCheck!

岐阜SHINE
Facebook /



パラリンピックに初めて出場し、車いすバスケットボール日本男子初のメダル獲得に大きく貢献した秋田啓選手。
1次リーグから全8試合に出場し、主力選手の一人としてチームの躍進を支えた試合の舞台裏や、今後の抱負について話を聞きました。



2020年12月、八百津町立和知小学校で行った体験授業。車いす体験会などの交流を通じて、障がい者スポーツへの理解や関心を深める機会を作った



皆さんの声援が力になりました！
パリ五輪では金メダルを目指します